



高知県立梶原高等学校

高知県立梶原高等学校
同窓会事務局

〒785-0610

高知県高岡郡梶原町
梶原1262

TEL(0889) 65-0181

FAX(0889) 65-0172

平成31年3月発行

同窓会通信

未来に向かって



同窓会副会長 西村 信明

平成31年は、過去に記憶がないほどの梶原は白銀の世界が少なく、穏やかな年明けとなりました。

梶原高校同窓会会員の皆様、日頃は梶原高校と同窓会の活動に、格別のご配慮とご協力をいただきまます事に改めて感謝申し上げます。今後ともご健勝にてお過ごし頂きます事を願うばかりです。

さて、今年も卒業の春がやって来しました。今年度は31名の生徒たちが3年間過ごした高校生活から、それぞれの想いを胸に飛び立ちます。誠にめでとうございます。又、梶原高校同窓会への入会にご理解とご協力をいただきました、ご家族の皆様にも、お喜びと感謝を申し上げます。

貴方たちが3年前、桜の花が咲き誇る頃、不安と希望を胸に校舎前の坂道を初々しい制服姿で入学した姿を思い出します。あれから地域の方々に温かく見守られながら又、地域にも触れ合い色々なイベントに参加してくれましたね。貴方たちの元気で、楽しそうなる舞いは、梶原の人々を和ませてくれました。これから、それぞれの人生の目標に向かって楽しんで生きてください。時には挫折を味わうかもしれないですが、貴方たちの人生は社会生活が始まったばかりです。山あり谷あり楽しんでください。ひと山越した感動を実感してみてください。壁に突き当たった時は、誰かに相談しましょう。貴方たちの故郷

はここです。いつでも帰ってきてください。貴方たちの二度とない人生にエールを送ります。

最後に、貴方たちを立派に卒業まで導いてくださった高橋校長先生を始め諸先生方や地域の隅々の皆様に感謝申し上げます。



梶原高校 校長 高橋 志治

平成30年度 梶原高校の現状と課題

1 はじめに

平成28年4月1日に着任以来、3年が経ちました。昨今ますます梶原高校が津野山地域の最高学府としてなくてはならない存在であり、今後もこの地域に貢献できる人づくりのため、確かな学力と豊かな心の育成を図る場としてその役割を担い続けなければならぬことを強く感じる次第であります。そのためには、教職員が一丸となつて、魅力ある学校づくりに取り組みとともに、学校だけでは困難なことも多く、生徒・保護者・地域そして同窓会の皆様の協力を頂きながら、それぞれがその役割に応じて一丸となり、チーム梶原として梶原高校存続に向けた取り組みが必要であると考えます。

来年度は2年に一度の同窓会総会もありますので、多くの同窓生を募り、その場で本校の現在の成果や取組を知っていただき、これからの本校の教育活動への理解とご協力をお願いしたいと思っております。

2 梶原高校の現状

平成30年4月1日現在の生徒数は、115名（1年生41名、2年生43名、3年生31名）で、昨年度より13名減となりました。連携中学校の梶原中学校からは63名（55%）、東津野中学校からは16名（14%）、連携中学校以外が36名（31%）となっております。遠隔地の生徒も多く、寄宿舎の活用は欠かせません。

3 平成31年度以降の構想について

小規模校ならではの一人一人を大切にしたい取組を行い、「主体性を持って希望進路を実現していく生徒」の実現をはかる魅力ある学校創りに努めたいと考えます。

そのためには、中山間地域にある本校からでも難関大学、公務員等に合格できることをはっきりと示す必要があると考えます。30年度の3年生は自分の進路に関し、大学に進学し野球をさらに極めたいものや、専門学校で自分の進みたい職業の資格取得を目指すもの、また、就職についても公務員をはじめ希望に向かって進み始めています。進学においても国立大学や難関私大への合格者を輩出するなど結果を残してきました。これらについては、次年度に向け学力の伸長状況、進路先等を客観的に把握し検証し、評価して更なる成果に繋げていきたいと考えているところです。

これからの梶原高校の魅力化を図るため、現在進めています次の6点について説明いたします。

令和元年度進路決定状況(男子26名 女子16名 計42名) 令和2年2月現在

進路別		本年度	就職・進学先等
進学 (26)	大学	国立	5 高知大学(3) 高知工科大学(2)
		私立	8 高知学園大学(2)・徳島文理大学 四国学院大学・愛知産業大学 星城大学・川崎医療福祉大学 神戸医療福祉大学
	短大		5 高知学園短期大学(4)・徳島文理大学短期大学部
	専修学校	公立	3 高知高等技術学校・高知県立林業大学校 高知職業能力開発短期大学校
		私立	6 四万十看護学院・平成ふくし専門学校 国際デザインビューティーカレッジ 龍馬看護福祉専門学校・大阪こども専門学校 広島リゾート&スポーツ専門学校
	就職 (10)	一般	7 旭食品株式会社・(株)技研製作所 (株)中成・(有)ジョイントショップキタオカ (株)けんかま・(株)キャプティ 日本食研ホールディングス株式会社
公務員		3 自衛隊・高知県警察官(2)	
その他		2 芸能関係・Sunway University(マレーシア)	
合計		39	

校は教育目標を「学力の向上」「豊かな人間性・社会性の育成」「社会地域に貢献する人材の育成」としており、生徒一人一人を大切に、個々の力を引き出し、伸長させる椿原高校ならではの学びを展開し発展させて行く責任と義務があると考えています。今後も現在のクラス数を維持し、生徒のお互いの切磋琢磨とともに、この環境を生かした教育活動を行っていきたくと考えています。

そのための方策として、次のことを継続していきたくと考えております。

① 生徒数の確保

生徒数は、本校の職員数をはじめ授業講座の編成、学校行事や部活動の充実などの特色ある教育課程の実施に大きな影響のある要因であり、生徒間の好ましい切磋琢磨の展開にも関係のあることから、生徒募集活動を積極的に行ってまいります。

本年度は、8月に高知市で実施のあった「高知市外県立高校フェスタ2019」や8月末



から東京・大阪で行われた「地域の学校フェア」、10月に高知市内で行われた「ゆすはらフェア」に参加し学校説明をさせていただきました。また、現在の在籍生徒の出身中学校を含む35校への学校説明訪問や本校での1日体験入学、中高連絡会などを実施し、本校の取組についての広報を行い、生徒募集活動を実施いたしました。これらの取組は今後も継続すると同時に在籍のない中学校への訪問も増やして行きたいと考えています。

また、昨年度は津野山神楽を雲の上の図書館前で子ども園の児童やYURURIの利用者の方に披露した取組や、本校の特色の紹介シシ皮革の地場産品開発への取組などをメディアに取り上げていただき、本校の様々な活動について知っていただく機会をいただきました。今後も様々な機会をいただき取組を紹介し、自己伸長を目指す生徒の確保に繋げて行きたいと考えています。

② キャリア教育の推進・地域をテーマとしたプロジェクト学習の充実

これからの超スマート社会といわれる社会(society5.0)や持続可能な開発目標(SDGs)と言われる健康や福祉、教育、エネルギー、働きがいや経済成長などの目標を意識しようとする社会で必要となる力を「地域を知る・課題を見つける・課題解決の方策を考える」を中心に、本校の特色である地域をテーマと

する地域学「YELLプロジェクト」や2年次からの各コースでの学習・特色ある取組も含め、学校生活全体を通してキャリア教育の中で育成していきます。また、この学習が地域に貢献できるものとなるよう学習成果を発表会や実習等を通してお知らせしてまいります。

③ 進路希望の実現

学校生活、家庭や地域の生活の中で次第に生徒の中で明確になっていく多様な進路希望について、その実現のために個々の希望に応じた進路指導として志望動機の確認や進路実現のための工程を生徒と確認し、その工程を着実に実施していくよう支援をいたします。

個別指導として、進学希望者には教科や小論文、志願理由書などの添削指導の実施、就職希望者には就職試験問題対策指導や面接指導等を行います。全体指導としては、進学希望者には進学講話や模擬試験、進学補習等を実施し、就職希望者には就職説明会、面接試験マナー講座、各企業等からの説明会などを行ってまいります。

④ 部活動の活性化

本校の大きな魅力の一つである部活動の活性化をさらに図ってまいります。体育系では野球、アーチェリー、バスケ、ソフトボール、また文化系ではダンス、バドミントン、バレーボール、全国高等学校総合文化祭の伝統芸能部門・神楽(出場)、家庭クラブ等を中心に部員確保や成績向上、取組内容の深化といった成果が上がっています。現在、野球部とアーチェリー部は高知県高等学校運動部活動強化推進校B(地域の特色を活かし、地域と連携した活動により競技力向上を目指すことが期待できる運動部)に指定されており、この2つの部

活動はもとより、すべての部活動が地域から支援していただける取組となるよう、指導体制の充実と真摯な取組を通して、より一層の飛躍を目指してまいります。

⑤ 寄宿舎(寮)の充実

本校には、考山寮と越知面にある寮の2つの寄宿舎(寮)があり本年度は46名の生徒が入寮し、遠隔地からの生徒が安心して生活できる環境があります。現在、2021年4月運営開始予定で大蔵谷地域に建設を進めていただいている生涯学習交流センター(仮称)は、生活環境として、また学習環境としても非常に魅力的な施設で、特に遠隔地の生徒にとっては、今まで以上に本校進学にあたっての安心感や魅力に繋がるものと考えています。この施設を有効に活用するよう、食事の提供や利用マナー、ルールはもちろん、補習等も含め施設の利用について総合的に検討し、こうした環境も含めて選ばれれる学校、「わざわざめざす椿原高校」となるよう進んでまいります。

⑥ ICT(情報通信技術)を活用した授業の充実や個別最適化学習の推進

本年度整えたWi-Fi(無線通信)環境と、導入した43台の生徒用タブレット端末の活用方法を工夫し、課題を発見し解決していく探究的な学習を進めていきます。このことにより新学習指導要領の目指す「主体的・対話的で深い学び」を実現し、将来必要となる力



を育てて行きたいと考えています。
また、ICTの利点を活用し生徒自身が自分にあつた学習を主体的に行い、個々の能力を伸ばしていくよう方策を立て実践していきたいと考えています。

3 進路状況について

進路決定状況につきましては別表のとおりです。本年度は2月現在で4年制大学に13名(うち国公立大学5名)、短期大学に5名、各種専修学校に9名と卒業生全体の約62パーセントが進学、就職決定者は10名で約26パーセントという状況です。次年度以降も学習指導と進路指導の強化と機能する工夫を図り、生徒個々の進路実現をしっかりとサポートしていきます。

4 おわりに

本年度は各学年2クラスでスタートし、文化祭やマラソン大会、龍馬脱藩マラソンボランティア、総合学習発表会など各種学校行事の盛況・成功に加え観光甲子園での決勝進出や地場産大賞最終審査への出場、アーチェリー部のインターハイ出場といった各部活動の活躍など、本校生徒の活躍が沢山ありました。また、進路実績も着実に伸ばすことができていますと考えています。このことは生徒の意識の高まりや努力の成果でもあります。こうした風土を創出し、伝統として継承してきていたいただいた同窓会のみならずと保護者、地域の方々の実践があつたからこそ、本校の歴史を振り返り実感しております。今後も本校は津野山地域唯一の高等学校として、同窓会及び保護者、地域のみならずまのご期待に応えることができるよう努力してまいります。どうぞご支援、ご協力、ご指導いただきますようお願いいたします。



椿高生、革製品開発に挑戦



製作した生徒の感想

●イノシシの革に触れる機会は全くありませんでしたが、キーホルダーを作ることでイノシシをはじめとする椿原の自然や椿原町について改めて考えることができました。椿原の自然が育んだ物品はたくさんあり、これからのその活用方法を考えていきたいと思っています。(1年Aホーム 大下 柚香) ●

●作る前はあまりジビエについて知らなくて、「ジビエ＝鹿や猪の肉」というイメージがありました。製作後は、ジビエは肉だけのことを言っているのではないことを知りました。また、自分たちで何かを作ったという体験があまりなかったのですが、私たちの作った物を買っていただくために、品質のことも考えて責任を持って作業にあたりました。(1年Aホーム 片岡 風花) ●

それを縫うために穴をあけるのですが、この作業が大変でした。しかし、縫い合わせて形になってくるととてもやりがいを感じ、丁寧に仕上げられました。(1年Aホーム 川上 流佳) ●

●イノシシの革を使ってキーホルダーや名刺入れを作っていくなかで、穴をあけたり、型を取ったりするのが難しかったですが、辛抱強く取り組んで製品という形になったときは達成感を覚えました。もともと捨てられていたイノシシの革を活用するという発想は、自然の恵みを最大限に生かす一つの方法だと思います。(1年Aホーム 久岡 茉悠) ●

●イノシシの革の加工には、意外と手間と時間がかかると思いました。最初は、慣れない手作業に戸惑いましたが、慣れてくると作るのも早くなりました。イノシシの革という椿原の素材を生かして製品を作り、それが売れていったことに喜びを感じました。(1年Bホーム 下村 百葉) ●

本校では、地域を学ぶ講座YELL(Yushara's Education for Life and Living)で、生徒たちは、大きく4分野(観光・環境文化、PR、産業)に分かれ、棚田による稲作、津野山神楽、地場産品を用いた商品開発、観光PR、ジビエなど地域にかかわる学習をグループで行っています。今年度、お土産物産開発グループは、「ゆすはらジビエの里」で従来は廃棄していたイノシシの革を利用した皮革製品を製作しました。
イノシシの皮をなめして革にするには、剥いだイノシシの皮に残った脂や肉を念入りに除去する作業が必要です。指導教員の小笠原理佳先生が自ら刃物でこの作業を行い、その後専門業者によるなめし工程を経て、材料の革が完成しました。1年生の女生徒5人の有志が集まり、革から型取りし縫い合わせてキーホルダーや名刺入れを製作しました。11月の文化祭では、名刺入れは展示し、キーホルダー100個を販売したところ、手触りの良さやイノシシの革製品という珍しさもあり、来場された多くの方々から大好評で完売しまし



椿原産ジビエ活用広がる

施設と専用車 年400頭処理

料理好評 皮製品作りも

コース料理のメインを飾ったシカ肉のロースト(高知市の「グランディール高知」提供)

「イノシシの革」は、イノシシの肉を加工する際に残った皮を、丁寧に洗って乾燥させた後、専用の機械でなめし、革に仕上げます。この革は、イノシシの肉と同様に、アレルギーフリーで、アレルギーの人でも安心して食べられます。また、革製品としても活用されています。

「イノシシの革」は、イノシシの肉を加工する際に残った皮を、丁寧に洗って乾燥させた後、専用の機械でなめし、革に仕上げます。この革は、イノシシの肉と同様に、アレルギーフリーで、アレルギーの人でも安心して食べられます。また、革製品としても活用されています。

令和元年度高知県立梼原高等学校 同窓会総会の報告

同窓会事務局 北岡 良一

本年度の同窓会総会は、令和元年10月26日(土)15時より、川西路構造改善センターで開催されました。総会と懇親会には、27名の同窓生の参加がありました。
校歌斉唱後、熊田同窓会会長、来賓中越計清様ご挨拶に続きまして、岡田圭司校長挨拶と学校の現状報告がありました。その後、平成30年度の事業報告と決算報告、令和元年度事業計画案と予算案の提案があり、審議の後、全会一致にて承認されました。
総会に引き続き、デイスカパークラブ6名による神楽の演目「鯛釣り」、津野山地区以



デイスカパークラブ

外の出身生徒、雨森街子さんによる梼原での高校生活体験発表、3年生林裕輝君による歌の披露と3つの生徒発表がありました。同窓生の皆さんは、生徒の発表を本当に楽しみにしていたご様子で大変喜ばれ、生徒は万雷の拍手を受けました。
17時から和やかな雰囲気での懇親会が始まり、青春時代の思い出話に花を咲かせる一方、生徒発表に対して多くの称賛の声が聞かれました。また、今回の総会にもぜひ生徒発表をした声が多くあり、同窓生の皆さんには、後輩である生徒の活動に触れたいという強い思いがあることが分かりました。今回の生徒発表を通じて、同窓生の皆さんがさらに母校への愛着を強めていただきたいと思います。2年後の総会も大勢の同窓生の皆さんが参加いただけますよう、企画を考えていきたいと思いま

雨森街子さん



- #### 令和元年度 高知県立梼原高校同窓会役員
- | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|-----|----|----|----|----|----|-------|-------|--------|------|------|-----|-----|----|
| 監査 | 理事 | 理事 | 理事 | 理事 | 理事 | 理事 | 理事 | 理事 | 庶務 | 庶務 | 庶務 | 副会長 | 副会長 | 副会長 | 会長 |
| 木谷 | 上田 | 梶原 | 森山 | 中越 | 二宮 | 下元 | 玉川 | 長岡 | 北岡 | 細木 | 井上 | 岡田 | 竹崎 | 西村 | 熊田 |
| 克仁 | 知子 | 布佳世 | 学亮 | 智志 | 健志 | 善一 | 豊 | さおり | 良一 | 建男 | 稔 | 圭司 | 美栄子 | 信明 | 光男 |
| | | | | | | | | (事務長) | (総務部) | (主幹教諭) | (教頭) | (校長) | | | |



林 裕輝 君



事務局より
この通信は、梼原高校、梼原町・津野町役場、梼原町地域活力センター（ゆすはら・夢・未来館）、JA、高知銀行支店、梼原病院に置かせてもらっていますので、ご自由にお取りください。